**通訳ワークブック用　翻訳分析シート**

|  |
| --- |
| セクション番号：9-1 |
| 自分の翻訳 |
| はい、「難民」という日本語の文字をそれぞれ訳すと、「難しい状況におかれている人々」という意味になります。実際には、難民がどのような人を指すのかを正式に定義したのは1951年の難民条約でした。そしてこの国連条約によると、難民とは人種、宗教、国籍、特定の社会的集団に属すること、政治的意見などの理由により迫害されることを恐れて自国から保護してもらえない人、あるいは自国に留まれない人のことを指します。 |
| モデル訳を見て修正した自分の翻訳（修正部分は赤字にすること） |
| はい、「難民」という日本語をそれぞれ訳すと、「難しい状況におかれた人々」という意味になります。実際には、難民がどのような人を指すのかを正式に定義したのは1951年の難民条約でした。そしてこの国連条約によると、難民とは人種、宗教、国籍、特定の社会的集団に属すること、政治的意見などの理由で、自国にいると迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた人のことです。 |
| 自分の翻訳とモデル訳の比較分析およびコメント |
|  “refugee”の意味については、日本語の2つの漢字の持つ意味をそれぞれ訳して1つのフレーズに集約するとこういう意味になるというニュアンスを表現したかったので敢えて「文字」という言葉をつけました。ただ、「日本語の文字」という言い方はあまりしないので、自然な翻訳をするには不必要だったと感じました。have been put into の部分は文法的にはbeenが含まれているため、「おかれている」と訳すことも可能だと思います。しかし、この文脈では「難民」という言葉の意味の説明で用いられている表現であるため、現在完了形の継続用法で表す必要はないと思いました。日本語で定義や意味を説明するときには進行形ではなく断定口調で語ることが一般的であるように思われるからです。最後の1文に関しては、モデル訳が少し意訳調になっていると感じました。この文章はコンマで区切られる形でchunkがたくさん連なるという複雑な文章になっているので、翻訳するのに苦労しました。文章の構造を見極めなければ、何が何に修飾されているのかを取り違えて訳してしまいそうだったので、それぞれコンマで区切られたフレーズごとに訳し英語の原文と、自分の作った日本語の翻訳文とを照らし合わせながら、フレーズの順序や修飾関係を見抜きました。また、自分でも訳に自信がもてないまま訳してしまった「自国から保護してもらえない」という部分はやはり、文章の繋がりから見ても違和感がありました。しかし、英語の原文を忠実に訳そうとしたら私にはこの翻訳しか思いつきませんでした。答え合わせでモデル訳を見て、どうしても自然な日本語に訳せない場合にはその部分を変更して訳しても原文の意図していることが伝われば良いのだなと学びました。 |

|  |
| --- |
| セクション番号： 9-2 |
| 自分の翻訳 |
| 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）によると、2014年半ばには1300万人の難民および国内避難民がいました。これらの人々は内戦や治安（セキュリティ－）の悪化状況により自国から逃れることを余儀なくされました。まだ正式に難民と認定されていないけれども他国での保護を求めている人々は「庇護希望者」として知られており、彼らもまた命を脅かされる深刻な状況に直面しています。 |
| モデル訳を見て修正した自分の翻訳（修正箇所は赤字にすること） |
| 国連難民高等弁務官事務所、通称UNHCRによると、2014年半ばには1300万人の難民および国内避難民がいました。これらの人々は内戦や治安（セキュリティ－）の悪化状況により自国から逃れることを余儀なくされました。まだ正式に難民と認定されていないけれども他国に保護を求めている人々は「庇護希望者」として知られ、彼らもまた命を脅かされる深刻な状況に直面しているのです。 |
| 自分の翻訳とモデル訳の比較分析およびコメント |
| 今回の課題は授業中にモデル訳を見る時間が少しあったので、だいぶ上手に訳せたと思います。モデル訳と自分の翻訳を照らし合わせた際に訂正箇所が少なくて自分でも驚きました。やはり、私は英日翻訳よりも日英翻訳の方が苦手なようです。私は補足事項のような情報は日本語でも英語でもかっこ書きをしてしまうのですが、モデル訳のように「通称」という言葉を補うとよりわかりやすくなると思いました。in other countriesの部分を私は、自国では無理なので他国でという意味を込めて他国を強調する形で「他国での」と訳したのですが、inなのでモデル訳のように「他国に」と訳した方が良いとわかりました。「命を脅かされる深刻な状況」に関しては、翻訳の段階で上手に日本語に訳すことができたと思っていたので、モデル訳と同じ翻訳ができていて良かったです。このセクションでモデル訳と最も異なった点は語尾の口調であると思います。文章が続く場合には「知られ」と途中で切ることで、まだ次の言葉があるという印象を読者に残したり、「しているのです」というような形で読者に説明するような口調を用いるのが良いと感じました。これは自分が作った翻訳文を1文1文読んで訳を確認するのではなく、セクション全体の翻訳文を読み日本語として不自然な部分はないかや読者にわかりやすい翻訳文となっているかを確認することで可能になると思うので、次に英日翻訳の課題が出たときには翻訳文全体の整合性を意識して訳してみたいと思います。 |

|  |
| --- |
| セクション番号： 9-5 |
| 自分の翻訳 |
| ヨーロッパに関しては、ご存知かもしれませんが、EU首脳会議が今年の７月にベルギーにて開催されました。主要な議題は中東及びアフリカから地中海を渡りヨーロッパへ来る難民の急増に関する政策についてでした。2014年だけでも220000人の難民がおり、今年はすでに110000人の難民が地中海を渡っています。主な議論の中心は、多くの難民が最も近い国であるイタリアに漂着しているので、どの国がこれらの難民を受け入れる気があるかということでした。 |
| モデル訳を見て修正した自分の翻訳（修正箇所は赤字にすること） |
| ヨーロッパに関しては、EU首脳会議が今年の７月にベルギーにて開催されたことはご存知かもしれませんね。地中海を渡りヨーロッパに来る中東やアフリカを出身とした難民が急増したことに関する対策が主な議題となっていました。2014年だけでも220000人の難民がおり、今年ですでに110000人の難民が地中海を渡っています。主な議論の中心は、多くの難民が最も近い国であるイタリアに漂着していることから、どの国が移民を受け入れる意思があるかということでした。 |
| 自分の翻訳とモデル訳の比較分析およびコメント |
| you may know を文章のどこに挿入しようかは翻訳の際に迷ったのですが、モデル訳が文末に持ってくるとは思いませんでした。やはり、モデル訳は語り口調であり、読者の注目を集めるような口調を意識していると思われます。you may knowという英語の原文が持つ意味自体が「ご存知かもしれません」という読者に話しかけるような意味合いを持っているので、この文章においては特にモデル訳のように語り口調で訳した方が良いと感じました。policyという単語に関しては基本的に「政策」と訳してしまうのですが、この文脈では好ましくない事態に対してのpolicyなのでモデル訳は「政策」よりも「対策」と訳したのではないかと考えました。Middle Eastern and Africanという部分に関しては、どちらも形容詞であるため、難民という人を表す際にはモデル訳のように「出身とした」という文言を添えなければならないと学びました。私の翻訳は修飾関係を取り違えて区切る位置を間違えて訳してしまったようです。Middle Eastern and African refugeesとMiddle Eastern and Africanはrefugeesを形容しているので、どこからの難民なのかを示すこの部分はまとめて訳すべきでした。その上で、どのような難民なのかをcrossing以降の文章で「中東やアフリカを出身とした難民」を修飾する形で訳すのが正解なのだと思います。and this yearという部分に関しては、その語が含まれている文章の前半に2014年の難民の人数が言及されているので、「今年は」と言うよりも「今年で」と継続のニュアンスを表す助詞を補う方が良いと学びました。最後の文については、refugeesという言葉を頻繁に用いるのではなく、柔軟な発想で「移民」と訳すことも必要だと学びました。これは難民という言葉が同一の文の中に2回も使われることがあまり好ましくないからだと思いました。日本語ではあまり感じませんが、英語では同じ単語を何度も使うことは良くないとされているので、日本語に翻訳する際にも、もしかしたら同じ単語を繰り返さないということを意識した方が良いのかもしれません。 |